

飯島賢二の『恐縮ですが・・・一言コラム』

第 62 回 地球はやっぱり、丸かった～世界地図の見方

先日、コメンテーター、評論家で、テレビでも著名な高野孟氏の講演を聴いた。『最新世界地図の読み方』(講談社現代新書)という彼の著作から、大変興味深い話を耳にすることができたので、彼には内緒なのだが、このコラムでそのさわりを紹介してしまう。関心ある方は、是非、彼の著書を購入していただきたい。～地図の話である～

日本が真ん中にある世界地図、小学生の時から見慣れているあの地図である。しかしあの地図は、日本以外、どこへ行っても売っていない。ヨーロッパで売られている地図は、フランスなら当然フランスが中心、ヨーロッパ大陸のすぐ隣には、アメリカがある。日本は右の隅っこに、忘れられた程度に、ちょこんと存在する。アメリカとヨーロッパは遠くなく、むしろ隣り合わせに存在する。彼らにとって一番遠い国は、日本、つまり、the Far East 東の最果ての地、「極東」である。

いつも見慣れた地図を見ていると、ロシアとアメリカは太平洋をまたいで存在する。かつて冷戦時代、ソビエト連邦はワシントンに向けて、アメリカ合衆国はモスクワに向けてミサイルを配備した。いつもの地図を使うと、ソビエトはワシントン目がけ「右」へ向けてミサイルを配備、逆にアメリカは、モスクワを目指し「左」へ向けて配備する。太平洋を横断し、かなりの飛行距離をミサイルが飛ぶことになる。

が、実際はそうではない。いつもの地図で言えば、両国とも「上」に向けてミサイルを配備することになる。何故か...? 地球は丸いからである。丸い地球儀を上から見ると、アメリカとロシアは北極を軸に向かい合っている。距離も、驚くほど至近距離にある。この軌道を通るミサイルが、一番早くて効率がよい。日本からアメリカへ飛行機で行く場合も、アラスカ経由であること、思い出してほしい。

そんなこと今さら、とっくに知っているよ...とおっしゃる方は、大変結構。

そうでない方、「目から鱗^{うるこ}」程ではないにしろ...ちょっぴり、驚かれたに違いない。

我々がいつも「当たり前」と思い込んでいることも、実は、そうではないのが真実かもしれない。たかが、世界地図の読み方だけど、そんな顕著な例の一つといえよう。正しい知識と情報力を持ち、常に検証を繰り返していれば、いつかは分かる筈のものである。しかしそれを怠ると、「思い込み」のまま、いつまでも恥をかき続けなければならない。

高野氏の講演の主旨は、世界地図を読んでいく中で、今後の日本のあるべき姿を模索していく...と言った、別の、より高度な次元にあったようだが、徐々に面白いテーマをいただいた思いで、早速、高野氏の「本」を買い、インプットしている最中である。